

2016 年 8 月 27 日

博報財団 第 10 回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

| | |
|--|---|
| 氏名 | KAEWKITSADANG Patcharaporn(ケーオキッサダン パッチャラポーン) |
| 在住国名 | タイ |
| 所属・役職 | タマサート大学 教養学部 日本語学科 助教授 |
| 招聘回(招聘研究期間) | 第 10 回 (2015 年 9 月 1 日～ 2016 年 8 月 31 日) |
| 受入機関 | 東京外国語大学 |
| 招聘研究テーマ | Can-do をベースとしたコミュニケーション日本語教育及び日本語教科書の調査研究 —タイの高等教育機関における日本語教科書作成への応用の可能性— |
| 研究目的 | Can-do をベースとしたコミュニケーション日本語教育及び日本語教科書の調査研究を行い、日本とタイで調査研究した結果を考察し、その調査結果を基にタイの高等教育機関における日本語教育の目標に合った人材育成のためのコース及び教科書作成への応用の可能性を検討し、タイの高等教育機関のための日本語教科書作成を目指す。 |
| <p>研究概要：</p> <p>(ア) 本研究は、タイの大学における日本語専攻の学生対象の Can-do をベースとしたコミュニケーション日本語教育及び日本語教科書作成を目指すものである。</p> <p>(イ) 日本の大学 4 校における日本語教育及び日本語教科書の調査研究を行った。多くの大学はコミュニケーション日本語教育及びスタンダード開発を意識しており、10 年前からスタンダード開発及び教科書開発に力を入れているところもある。教科書の面では、初級では各大学が開発した教科書を使用するが、中級以上では市販の教科書や生教材を使用するという。日本の大学対象の調査結果を本研究に参考・応用することが可能である。そして、タイの学生にどのような Can-do が必要なのかを考える際、タイの大学生と卒業生を対象に行ったアンケート調査の結果を参考にした。</p> <p>(ウ) 調査結果及び JLC 日本語スタンダード等を参考に、タイ・タマサート大学の日本語専攻コースの Can-do 記述文によるカリキュラム改訂を試案した。更に、コミュニケーション日本語教育及び Can-do 記述文によるカリキュラム改訂案の下で、到達目標を日本語の教科書作成へ応用し、「総合日本語 1」で設定された具体的な Can-do 記述文に沿った場面シラバス教科書作成の予備検討を行った。</p> | |
| <p>展望：</p> <p>試作した教科書を試験的に使って、学生及び関係者に評価してもらおう。評価結果を分析し、継続的な改善を図っていきたいと考える。</p> <p>カリキュラムの目標と各技能の目標を基にしたより具体的な Can-do 記述文をすべての教科に対して設定し、運用能力・コミュニケーション能力養成シラバス・カリキュラム・コースの一貫性、連続性、実施可能性を大学の関係者と検討し、それに教室活動や評価法等の改善も考慮し、コミュニケーション能力が求められる 21 世紀に生きる学生に合った日本語教育を目指す。</p> | |